

【福井】 支援物資の積み込みボランティアを志願－福井大医学生



福井から救援物資を送ることをつながり学生にメールで流したところ、福井大学の1年生が「ぜひ積み込みの手伝いをしたい」との返信メール。

3月18日、積み込み作業に参加し、出発式でマイクを持って民医連の派遣隊へエールを送ってくれました。



【静岡】 原発事故による人体への影響を学ぶ－浜松医大医学生ボランティア

生協きたはま診療所の震災支援活動にボランティアとして参加していた浜松医大の学生ら約20名は、3月16日、聞間元医師（民医連被ばく問題委員会・前委員長）から、被ばくによる人体への影響についてお話を聞きました。聞間医師は、政府発表やマスコミ報道の問題点を指摘しながら、「正確な情報を伝



えなければならぬ」と強調しました。学生は、「大学では放射線被ばくに関してほとんど勉強しない。とても勉強になりました」と語っていました。

きたはま診療所の待合室には、震災支援を呼びかける学生手書きのメッセージが壁一面に張り出されています。



【岐阜】 津波被害の家の片付けやヘドロの除去作業－岐阜大生の現地支援報告－

現地支援に入った岐阜大学のEくんから、3月23日に被災地の状況報告がありました。

「今日は岐阜5人と山形の3人（医学生2人）の医学生グループで松島海岸診療所に行き、津波で冠水した家を訪問して片付けをしたり、薬局で薬棚の中まで溜まったヘドロを片付けたりしました。

松島は、電気はありますが水道・ガスは復旧してません。物理的な破壊はあまりなさそうですが、ヘドロが町中に広がっていて悲惨な状況です。

日本三景としてまた復興することを心から願っています。今日は病院職員・支援者の連日連夜の診療の疲労ということで、一部の夜勤以外全員休養になったようです。来て1日目でもまだまだ不完全燃焼ですが、寝ることになるかと思えます。」

